

西俊輔の「毎日楽しく」

Vo 1.10 2006年6月号

「不撓不屈」(ふとうふくつ)という映画が今月中旬全国で公開されます。経済小説で有名な高杉良さんの同名小説をもとにした映画ですが、新潮社の本に巻かれていた帯の宣伝文句はこんなかんじです。

「税理士・飯塚毅は、国税当局の誤った法解釈に抗して訴訟を起こす。しかし、メソツを潰された当局は、顧客に嫌がらせの税務調査を開始し、顧問契約解消を迫ることで飯塚を“兵糧攻め”にする一方、マスコミへの情報操作で揺さぶりをかける。そして遂に脱税事件をでっち上げて事務所員を逮捕、当局の卑劣な攻撃はピークに達した。」

なんだかすごい内容ですが、実はこれ昭和 38 年に実際に起きた事件をもとにしたお話です。税理士であり公認会計士でもあった飯塚毅先生は 2 年前に亡くなりましたがもちろん実在の方で、私たちの事務所も加盟している TKC という、会計事務所の全国組織を創設された方です。今では考えられないことですが、一会計事務所に対して動員した税務調査官の数は延べ 2,000 人といわれ、新聞などのマスコミをはじめ、ついには国会でも取り上げられる大変な事件となりました。これから映画や小説をご覧になるおつもりで結末をご存知ない方のためにあまり詳細は書きませんが、国会ではあの故渡辺美智雄さんも大きなはたらきをされました。

税理士・会計士という職業はわりと地味なせいか、医者や弁護士に比べてドラマや映画になることがほとんどありません。ですから、こういった形で映画になるというのはうれしいことですし、何よりも同業者にこのような偉大な先輩がいたということを大変誇らしく思います。でも、最近はライブドアやカネボウの粉飾決算に関連して税理士や公認会計士の名前をテレビ等で目にする機会も増えました。いずれ税理士や会計士を「悪者」としてとりあげる映画が出てきてしまうかもしれませんね。

税務当局の厳しい対応にも飯塚先生は負けなかった訳ですが、実際に飯塚先生のように行動するのはなかなか難しいものです。でもお客様をお守りするという精神は見習わなければといつも思っています。

